

千葉県議会議員

# ふじしろ政夫と共に県政・市政を変えよう

発行 ふじしろ政夫 政務調査報告ニュース 2011年10&11月号  
〒273-0122 鎌ヶ谷市東初富5-24-50 TEL&FAX 047-445-9144  
E-メール masao.fujishiro@zc.wakwak.com 後援会ホームページ http://e-kamagaya.com/



ふじしろ政夫

## 県政に“自治”を実現しよう！

—千葉県政は国の下請けか？—

9月県議会の代表質疑の中で、原発事故の問題、八ッ場ダムへの判断などを質問しましたが、なぜか森田知事を始め副知事を含めた行政当局は“国の動向を注視する”といった答弁に終始しました。(ふじしろ政夫の約60の質問に対して「国が……」と答えたのは、森田知事11回、副知事19回でした)

例えば、放射線被曝の健康管理体制を問えば「国の方針をまち」(森田知事)、脱原発の道を歩むべき、発送電分離をすべきと知事の立場を聞けば「国において総合的に判断すべきもの」(森田知事)「国が定めるもの」と。

八ッ場ダムの検討の場の客観性のなさ“茶番劇”性を問えば「国が定めて検討したもの」(坂本副知事)、八ッ場ダム予定地と代替地の地質の悪さを訴えれば、「国の責任で安全が確保されているもの」と考える(石渡副知事)との答弁でした。

これでは、県の立場はどこにあるのだろうか？地方分権一括法が2000年から施行され、国と地方自治体

は対等、これまでの機関委任事務は廃止され、自治事務が中心と言われて久しいが……。

坂本副知事の原発・エネルギー問題についての答弁の中に現在の森田県政の立場が集約されているようです。

「原子力発電について、事故の問題について、本来国の仕事であり、国が責任をもってやるべきもの。国・県・市にはそれぞれ行政のミッションがあり、放射能事故は、本来国がやるべきものであるが、県は緊急避難的に対応している。」と言明し、すべて国の責任という…。

では県のミッションは何なのだろうか？国の決定事項を市・村に伝えるメッセンジャーボーイか？単なる国の補助金の分配人なのか？県民の健康チェックの為、放射能基準を1ミリシーベルト/年にしていくのか、それとも何ミリシーベルトにするのかも「国の動向を注視して」と決めかねている。

今年4月、8月と一次、二次の地方分権一括法が成立し、より権限の移譲と義務付、枠付の撤廃。基礎自治体の自由度を広げ、自治の領域が拡大されることが望まれています。地方自治を広域で実現していく千葉県は県独自としてどう630万県民の自治を実現させていくかを考え、行動すべきです。

### ちば県議会 9月定例会で議論されたこと

☆モニタリングポスト6台追加(補正9000万円): 放射性物質の大気空中線量の測定は、市原(7m)旭市(10m)の2台のモニタリングポストで測られるのですが、今回は1mの高さで6台設置して測定します。(文部科学省の委託業務です) 柏市の田中小学校、市川市の大柏小学校、印西の船穂中学校、香取市小見川区事務所、館山亀ヶ原、茂原高校脇の大気測定局の6ヶ所です。文科省もやっと人が生活する高さ1mで測定する気になったようです。

☆子宮頸がんワクチン・肺炎球菌ワクチン・ヒブワクチン接種促進事業(補正23億2122万円): 公費負担となった子宮頸がん等ワクチン接種の促進の為、市町村へ接種費用の助成、国の基金での助成です。同額分を市町村が負担します。それぞれワクチン接種後の死亡例がありました。国は因果関係なしとして再開しましたが、多くの課題を残したままです。子宮がん検診率26.8%は低すぎます。

☆「千葉県立特別支援学校市川大野高等学園」平成24年4月1日開校(議案13号): これまで我孫子、柏、流山、松戸などの特別支援学校等に通っていましたが、葛南地区の生徒数が多く、この増加に対応すべく元県立市川北高等学校の跡地に知的障がい児の「市川大野高等学園」を新設します。

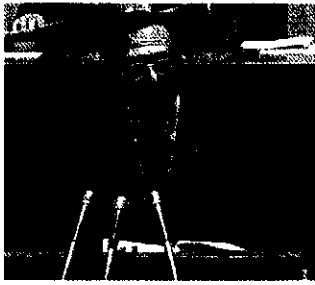
園芸24名、工業技術科24名、生活デザイン科24名、流通サービス科24名、生徒数288人の高等部です。耐震、教室改修で9億円の費用です。

☆千葉県子ども病院内に産科を新設(議案14号): 子ども病院での医療が必要と見込まれる新生児に対して、一貫した医療を提供するため、産科を新設し、周産期医療の機能も加えます。21床の増床、平成24年3月1日から開始します。



# ふじしろ政夫の代表質疑

# 「原発をやめるのは現実的でない」なら



9月議会では「市民ネット・社民・無所属」を代表して、質疑をしました。(9/30)

3・11原発事故によって原発の安全神話は崩壊しています。森田知事に“脱原発の方向で、再生可能エネ

ルギー社会をつくっていきますか?”と質問しました。

知事は「原発をすぐやめるのは現実的でない」「原発の安全性を高めることが重要」「エネルギー政策は国が決定するもの」と、大きな一歩を踏み出せません。

“ならば福島県の知事は脱原発を表明しています。野田政権は原発を止めようとはしていません。千葉県に原発をと言われたらどうしますか?”と問うと、答えず(答えられなかったのか?)に終了しました。

森田知事の政治姿勢をはじめ八ッ場ダム、三番瀬、公契約条例、教師の長時間労働の問題、野馬土手など質問しました。

主な質問と回答をお伝えします。

## 原発事故・放射能汚染・新エネルギー政策

Q(ふじしろ県議):安全神話は崩壊しました。「脱原発の再生可能エネルギー社会」をつくるべきでは?

森田知事:安心といわれてきた原発で、重大な事故があったのは事実です。ただちに原発をなくすのは現実的でない。原発の安全性を高めることが重要。電力の発電電分離については色々な意見があります。国が総合的に判断すべき課題です。

Q:文科省は、学校における放射線量について、年間1ミリシーベルトを基準としました。県も1ミリシーベルトにすべきですが?

防災危機管理監:基準は国が定めるべきで、県はそれをまっけて対応します。

Q:焼却灰8000Bq/kgを超えるものの一時保管場を千葉県内に確保してほしい。

坂本副知事:国に要望書を出しているが、県としても検討しています。

Q:側溝から2.48 $\mu$ sv/h、5 $\mu$ sv/hが検出された県立高校の除染をしましたか?

教育長:8/26除染の通知がきました。県は除染についても検討していきます。

Q:電力入札を全面に導入すべきでは?

石渡副知事:規模が小さな施設については、一括して包括でPPS入札の機会をつくっていきます。

## 八ッ場ダムの問題点について

Q:9/13検証の結果八ッ場ダムの方が有利と提示した“検討の場”の構成員は、ダム推進の一都五県の知事と事業主体の関東地方整備局です。客観的な判断・予断

なき判断ではないのでは?

Q:富士川から水を引くと1兆3000億円かかり、八ッ場ダムなら600億です。といった荒唐無稽な対比では公平、客観的判断とはいえないのでは?

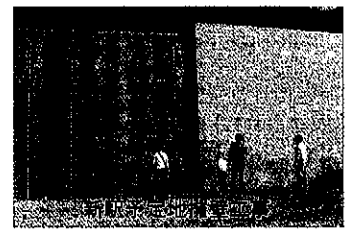
森田知事:第三者有識者会議が出した代替案で客観的に判断したものです。

Q:8/7集中豪雨で土砂災害が発生した「打越代替地」など、地すべりの危険性の多い、こんな場所にダムをつくらせるのですか?

石渡副知事:新たに検証され、国の責任で十分安全が確保されていると思います。

Q:3年以上工期が延びること、200億円以上事業費が増額することを国は示していますが、千葉県は、この変更を認めるのですか?

石渡副知事:国の説明では、工期も増額も「基本計画に直結しない」と言っています。



## 「柏廃材」周辺健康被害について

Q:野田市長も「健康被害の発症と関係すると指摘されている柏廃材の産業廃棄物処分業の更新を許可しないよう」要望しています。更新を不許可とすべきでは?

坂本副知事:「更新許可事務」は「法定受託事務」です。許可要件にのっとり可否を判断します。

## 三番瀬の保全とラムサール条約登録

Q:市川市塩浜2丁目護岸前面に人工干潟をつくるのは、三番瀬の保全によくはないのでは?

坂本副知事:単純になった三番瀬を多様化する為にも干潟をつくるのです。

人工干潟の実証実験をしています。それを評価して対応します。

Q:第二湾岸道路は、三番瀬の保全に抵触する型ではつくりませんか?

石渡副知事:千葉県にとって第二湾岸道路は重要な道です。ルート決定時には「三番瀬再生計画」を一つの制約条件として検討されます。

## 県立高校教師の長時間勤務

Q:フィンランドの教師は一日6時間16分、日本の教師は11時間6分の勤務時間です。日本の教師は働きすぎなのでは?

教育長:県立高校の教師の残業が多いことは承知している。少なくするよう指導している。

## 県道・歩道の整備

石渡副知事:国道464号くぬぎ山ふみきりは、くぬぎ山交差点改良事業終了後、地元市と検討していきます。

# 千葉県に原発がきたら認めるのか？」

## 野馬土手・捕込の文化的価値に光を

教育長：小金牧、佐倉牧は、幕府直轄の軍馬生産の遺構です。一体のものとして保存していきます。広域に文化的価値を啓発していきます。

## 官製ワーキングプアと公契約条例

Q:「官製ワーキングプアをつくらない！」との趣旨で野田市や川崎市では公契約条例を制定しました。県もつくるべきですが？

石渡副知事：最低賃金、労働条件は、法律に基づき労使間で決めるべきもの。公契約条例については、国や他県の動向を注視していきます。

## 北総鉄道の運賃大幅値下げへ

Q:平成22年2/19国交大臣が認可した成田空港線の上限運賃は、北総線の部分を高くするメタボ運賃。京成が支払う線路使用料は、北総線の減収分の補てんにすぎない。法に従って認可したとしても内容は不合理だと思いますが？

森田知事：それぞれ鉄道事業法に基づき認可したもの。

# 石油コンビナート防災

## —コスモ石油火災爆発事故—

東日本大震災復興・復興対策特別委員会

8/24、市原市五井にある石油コンビナート（コスモ石油）の現地視察をし、委員会を開催しました。

破壊したり、燃えつきた球形貯槽が無ザンな形でおかれてました。

3/11の300秒の地震で、貯槽364号の支柱筋交い部の破断。約30分後の余震で倒壊、それにより周辺の配管を損傷させLPガスが漏洩。LPガスに着火、火災が発生し5回の爆発。消火できず17基全てを燃やしつくす消防体制をとり3/21に鎮火。

最大の問題点は作業現場で緊急遮断弁を“開”にロックしてしまったこと。（法令違反）



それ故、火を消火するとガスが充満し爆発をおこす危険な状況がつづきすべてを燃焼させることとなったこと。

又、ガスよりも比重の大きな水を満た

しておいたが故に耐震性に問題が出て倒壊してしまった点も、リスク管理の視点の欠如として指摘されました。近くには触媒としての劣化ウランも貯蔵されており、石油コンビナートにおける防災対策の重要性を今一度感じました。基本はコンプライアンス（法令遵守）と安全第一の視点です。

今回の課題を解決する方向で防災計画が見直されることとなります。

# ハッ場ダム建設は“川原湯温泉街”をなくしただけ… —現地調査—

4600億円の巨額なハッ場ダム事業に対する千葉県の負担は505億円(利子などを含めると780億円)。平成23年以降支払う負担額は104億円。本当にムダな公共工事でないのだろうか？建設予定地川原湯地区の現地調査をしました(9/23~24)。



吾妻川溪谷にハッ場ダムがつけられるという計画が出て(1952年)から半世紀以上苦しめられた地元住民。ダム底に沈んでしまう川原湯温泉街は18軒から今や5軒。打越代替地に移った旅館の

方々は、温泉旅館業をせず、他に仕事を求めている状態です。温泉街を代替地に移しても、どう営業しているのだろうか？と疑問でした。近くにダム関連事業で作られた「天狗の湯温泉」は東京周辺にあるスーパー銭湯のようなもの。何を考えているのかと怒りすら感じてしまいます。代替地の“地すべり・土砂崩落”の危険が大きいことが、今回の現地調査(9/23~24)でよく分かりました。もともと脆弱な地質が指摘されていた、その地質の問題が今一挙に表われています。8/7集中豪雨によって川原湯地区の住民が移転する予定の「打越代替地」から土砂や樹木を巻き込みながら土石流が川原湯温泉駅前まで流れ込み線路上まで入ってしまいました。

切土斜面と盛土斜面でつくられている代替地。斜面をおさえる為の法枠工の鉄筋が強酸性の地下水の為腐食し、アンカーからも赤茶けた水を出していました。

又、ロックフィルダムと巨大な石を積んで土地を造成していましたが、巨石がこの数年間でポロポロに風化、土の状態になっています。沢のうえに造られる代替地、その危険性はダムを造ればより危なくなると。……ダムの水位の上げ下げは、法面に常に震動を与えているのと同じとのこと。

ハッ場ダムは、つくったとしても、奈良県の大滝ダムのように地すべりをおこして運用できないのではと思われました。

新川原湯温泉駅の予定地の「豊田乳業」さんのところで、おいしい牛乳とヨーグルトを飲みました。豊田さんは『ここにダムをつくって、浅間山が噴火したらその泥流はどうなるのか？』と国の役人に聞くと、役人は答えられず、苦しまぎれに『非常事態になったら超法規的にダムの水を放流してしまいます』と言うのです』と国のイカゲンさを指摘しました。

又、「今つくられている駅の擁壁は水を抜く穴もなく数10mにわたって地下水を溜めて“地下ダム”をつくってしまうのでは？と新駅のあり様にしても、国はまともにも考えてくれない」とのこと。

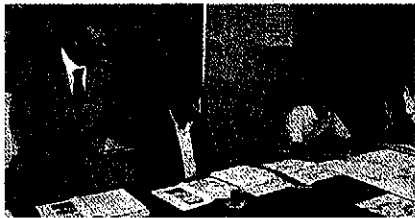
改めてハッ場ダムを造ることが、どんなに危険なことか理解できました。

現地の説明をしてくれたハッ場あしたの会の渡辺さんの言葉、「ダム建設計画は結果的には、美しく、心あたたまる“川原湯温泉街”をなくしただけ」が最後まで心に残りました。

## 県道の歩道整備

—東葛土木事務所へ要望活動—

清水市長と県議会議員、市議会議員は8月29日、東葛土木事務所を訪れ、①国道464号新バイパス整備の促進、②船取バイパス3期区間の整備、③県道の歩道の整備の3点について要望しました。



464号栗野バイパス一期工事の用地買収は、今年度中予定の4000㎡が終ると38%の取得率になるとのこと。地権者への誠意ある対応で一日も早く進めてほしいものです。

船取バイパス3期区間は、境界不確定が多くなかなか進まないとのこと。調査をきちんと行って、地権者に対応してほしいと思いました。

くぬぎ山交差点工事は、今年中に終了するとのこと。それ故その事業との関連の中で考えていくといわれていた「464号くぬぎ山踏み切り」の改良は事業へ向けて大きく歩み出すものと思われまます。

又、船取線の歩道上の占有物（電柱等）、千葉鎌ヶ谷松戸線のU字溝のふたのガタつきの改良事業も、鎌ヶ谷市の要望に対して、東葛土木は真摯に対応していくとの所長の弁でした。

## “さようなら原発”へ 1000万人の一步を踏み出す！

原発事故によって、私達の周りには、大量の放射性物質が降り注いでいます。ついに福島県の子供達に「一人一人の子供の首に線量計がつるされました」（崔さん）。こんな状況にしてしまったことへのくやしき、むなしき、悲しき、怒り……



落合恵子さんが言うように、今年の七夕の日、子供たちが短冊に「放射能こないで」と書く状況を、私達が造ってきてしまったのです。

脱原発へ向けた集会在明治公園で開かれ（9/19）6万人が参加。大きな一步が踏み出されました。呼びかけ人、内橋克人さんは「今、新しい様相での“原発安全神話”がつくられようとしている」と、原発推進村の強力なまきかえしが始まっている現状を警告しました。

福島の住人、武藤さんは「核はかくされる、私達はステラレル、命をうばう原発に怒りと悲しみで……」と原発事故下の福島の状況を切々と語りました。

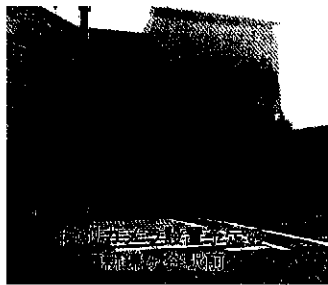
集会後、6万人の人々は、“さようなら原発”“原発いらない”“東電解体”“子どもたちを守ろう”“海・空・大地を守ろう”と訴えながら渋谷・新宿へと三つのルートでデモ行進をしました。

## 市内に防犯カメラ設置・・・

千葉県は、“ひったくりワースト1”になってしまった対応策としての事業費を当初予算に計上。

1台40万円の防犯カメラ125台を船橋市、松戸市、柏市、鎌ヶ谷市など7市に配分。

鎌ヶ谷市は9月議会の補正予算で、県からの補助600万円をつかって東中沢2丁目に5台、東初富5丁目・4丁目に5台、道野辺中央2丁目・3丁目に5台を設置、又、新鎌ヶ谷駅前に市の単独財源で2台設置します。



今後、“個人情報保護条例”を基本に、外部提供、保存、廃棄、管理等カメラ運営基準をつくり、設置地区住民への説明

会を行うとのこと。その後、入札し、設置（平成24年1月頃目標）です。（補正1018万円）

監視カメラの問題点をチェックしましょう。

市民のこえ

## 県議会傍聴

9月30日初めて県議会を傍聴した。総数95名の県議の集まる県議会はまるで大劇場のようであった。代表質問に立った藤代議員は、知事の政治姿勢にはじまり10項目にも及んだ。どの質問も関心のあるものばかりであった。特に森田知事の原発に対する考えや、昨年6月に市議会にも出された歩道（県道）に立っている電柱の問題、北総運賃問題など身近な事柄が取上げられ今まで遠くになっていた県議会が身近かに感じられた。それにしても脱原発の視点に立つのかの問いに国の方針を待つという知事の答弁。「ボク何歳まで生きられるの？」（福島9才の男の子）この問いに何と答えるのか。子々孫々にまで危害が及び今の社会のツケを次の世代に背負わせてよいのだろうか。答弁はききとりにくくわかりにくかった。県民、市民の自覚度に比例した議会が存在するとか。つきつけられている現実にしかり目をむけていきたいと思う。

渡邊暎子

## お知らせ

☆ふじしろ政夫県政報告会

11/27(日) 13:30～ まなびいプラザ

☆千葉県議会 12月議会（予定）

11/25 開会～12/20 閉会

□法律弁護士無料相談

要予約 ふじしろ県議まで

11/26(土) 13:00～

